

令和8年1月16日(金)に町内会役員を対象とした「令和の町内会講座」を開催しました。講座には25名の方にご参加いただき、町内会の現状と課題や令和の町内会運営のヒントについての講義があったのち、グループに分かれて「これからの町内会運営に向けた見直しと人材発掘～サポーター制度とアンケート実施の手法～」をテーマとしたワークショップを行いました。

《開催概要》

日時：令和8年1月16日(金) 14:00～16:30
場所：太白区中央市民センター 参加者：25名
内容：講義／ワークショップ／発表・まとめ



■ 講義

講師の(株)KITABA 酒本宏氏から、町内会活動の見直しや町内会のお手伝いしてくれるサポーターを見つけるためのアンケートの実施方法など、担い手不足の解消に効果的な手法や他町内会の事例等を交えた話題提供が行われました。

■ ワークショップ

ワークショップでは、6グループに分かれ、自分たちの町内会の課題に合わせたアンケートの実施方法や設問の作り方について意見交換を行いました。

※グループごとの意見やアイデアは裏面をご覧ください。

ワークショップ全体のまとめ

● 行事運営を支えるサポーターの確保を進める

- ・ 行事ごとに役割を明確にし、参加しやすい形で協力を呼びかける
- ・ サポーター制度を通じて、継続的な担い手確保につなげる

● こども・子育て世代との連携を強化する

- ・ こども向けイベントをきっかけに、子育て世代の参加を促す
- ・ 子ども会と町内会が連携し、行事や資源回収を協力して行う
- ・ 子ども会役員にも町内会役員会へ参加してもらう

● こどもが主体的に参加できる企画を進める

- ・ 夏休みの宿題につながるようなテーマ型イベントを検討する
- ・ ハロウィンのランタンづくりやクリスマスツリーの飾り付けなど、体験型の企画を行う
- ・ こどもが興味を持つテーマについて、アンケートで意見を集める

● デジタル化と情報共有を進める

- ・ LINEやSNSなどを活用した情報共有を進める
- ・ 回覧板と併用しながら、段階的にデジタル化を進める
- ・ デジタル担当者やサポーターの発掘を検討する

● 地域の実情に応じた人材発掘を行う

- ・ 役員のなり手不足や高齢化を踏まえ、人材発掘が重要
- ・ 町内会員の職歴や得意分野を活かしたサポート体制を検討する

グループごとの意見・アイデア

ワークショップでは、行事運営を支えるサポーターの確保に関する意見が多く出されました。子ども会との連携やこども向け企画を通じて子育て世代の参加を促し、あわせてデジタル化を支える人材発掘の必要性が共有されました。

グループ 1

- ・ 祭りでのテント設営や準備を手伝うサポーターを募集する
- ・ 回覧物の配布を支援するサポーターの必要性を共有する

グループ 2

- ・ こども向けイベントや祭り、文化祭を企画する
- ・ 夏休みの宿題につながるテーマ型イベントを検討する
- ・ 子ども会と連携し、芋煮会や行事への参加を促す

グループ 3

- ・ 特に地域活動への参加機会が少ない高齢男性に地域活動に参加してもらう仕掛けが必要である
- ・ アンケートで高齢男性向けの趣味や興味を聞き、外出のきっかけとなる取組を検討する

グループ 4

- ・ 高齢者見守りや行事運営を担う人材が不足している
- ・ 役員のなり手不足や集合住宅への加入促進の難しさが課題である
- ・ 集会所がない中での行事運営の工夫が必要

グループ 5

- ・ 行事運営に関するサポーターをアンケートで募集する
- ・ 町内会のデジタル化を支える人材を発掘する
- ・ LINEや掲示板など、複数の手段で周知を行う

グループ 6

- ・ 町内会活動を総合的にサポートする人材が必要
- ・ こどもの見守りや子ども会・PTA加入をリードする人材を探す
- ・ 経験者やベテランを顧問として迎え、助言体制を整える

